

# 酒造り 廃校舎で学ぶ

## 佐渡の尾畑酒造

### 新たな交流の場に

佐渡市真野新町の「尾畑酒造」(平島健社長)は、真野湾を眺望できる旧西三川小学校の校舎を酒蔵に改造し、5月から「学校蔵」として使う計画を進めている。古里の財産を再生させ、酒造りを学ぶ研修施設としての活用も目指している。

(石原健治)

西三川小は2010年に136年の歴史を閉じて真野小に統合された。日本海を眺望できる、温もりを感じさせる木造の校舎を備える。同社が保存・活用を市に申し出て、11年4月に借り受けることが決まった。二つある校舎のうち、理科室がある教室棟を醸造機械を備えた麹室などに改装する工事を昨年12月に開始した。今年は試験的に2400坪を仕込む予定。

新しい蔵での新酒の状況を見ながら、来年以降、全国の左党や酒造りに興味を持つ人々を募った研修施設としても利用していく。平島社長は「酒造りを体系的にしっかりと学んでもらう場所を提供するとともに、新たなコミュニティの場として利用できれば学校の建物の在りようとしてもいいのではないか」と話す。

旧校舎は、日本海に落ちる夕日が見られる絶景の地にあるとともに、17年の世界文化遺産登録を目指す佐渡金銀山の候補地の一つ、西三川砂金山にも近い。11年に、砂金山と周辺の笹川集落の農村景観は、県内初の重要文化的景観にも選定された。

平島社長は「酒文化だけ



「学校蔵」として整備が進む旧西三川小の校舎。手前は「尾畑酒造」の平島社長

でなく、世界文化遺産も含めて、佐渡の豊かな自然、農林水産業を堪能できる交流の場としても提供していきたい」と話している。